

第 636 回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

テレビ番組
「BSN NEWS ゆうなび」
(2018年4月2日放送分)



平成 30 年 4 月 20 日

BSN新潟放送

第636回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成30年4月20日(金) 午前11:00～

2. 開催場所 新潟市中央区 新潟放送 6F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員	古賀 豊	委員	服部 誠司
委員	小島 良子	委員	小原 清文
委員	渡邊 信子	委員	石坂 智恵美
委員	池田 幸博		

○委員側欠席者

委員	佐藤 元	委員	細田 康
委員	高木 言芳		

○放送事業者側出席者

社長	佐藤 隆夫	常務	島田 好久
放送本部長	小原 弘志	営業本部長	金田 博幸
編成局長	増山 由美子	情報センター長	丹羽 崇

事務局出席者

事務局員 阿部 基行(テレビ編成部長)

4. 議題

- 1 報告事項
 - ・「青少年に見てもらいたい番組」
 - ・番組種別公表制度に基づく「放送番組の種別と種別毎の放送時間」の報告(10月～3月)
 - ・5月の新番組・単発番組について(各局長)

- 2 審議番組 テレビ番組

「BSN NEWS ゆうなび」

(2018年4月2日(月) 午後6時15分～7:00放送)

5. 議事の概要

各局長からの「青少年に見てもらいたい番組」・「放送番組種別と種別毎の放送時間」・2018年5月度番組報告に続いて、テレビ番組「BSN NEWS ゆうなび」（4月2日放送分）について審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- ここ数日知事の辞任問題が話題となるなど特が経つのが早く状況が刻々と変わるのでニュースを審議するのは難しいと改めて感じた。
- 新年度のスタート日でお約束と言える入社式等を取りあげていたが、各層の話題をバランスよく分かりやすく紹介していた。新社会人へのインタビューは、ワークライフバランスや銀行の統合問題・働き方改革などを意識して優しい配慮をしながら伝えていた。視聴者参加型の月曜日の企画「チョイス」は丁寧に報告していたが、同じ内容が繰り返されるなど中だるみを感じた。報道記者出身の植田キャスターは初回で少し硬さを感じたが、これから現場経験を生かしていければ良いと思う。
- ニュース番組の審議は、難しかった。今回は植田キャスターが記者出身である事を意識して視聴した。とてもゆっくりと丁寧に話をしていたので、個人的に聞き取りやすかった。今回はDVDでじっくりと視聴したが、普段は家事などをしながら視聴するので普段は声だけの印象が強く聞き慣れた石塚アナウンサーのナレーションや天気キャスターの久能木アナウンサーの声が親しみやすく感じた。企画の「チョイス」では、植田キャスターが現場経験を生かし、凄く生き活きしていて好印象だった。どんどん取材に出て魅力が出てくるようになると良いと感じた。
- 「チョイス」の植田キャスターのリポートは、落ち着いた語り口調で良かった。天気コーナーで久能木キャスターがデータを交えて桜の開花を説明していたのは、知識を得ることが出来て良かった。「チョイス」は、結果を出すだけで終わっていて残念。もう少しデータについてまとめて欲しい。
- 植田キャスターは、落ち着いて安定感があると感じた。慣れてきたら色々な事に挑戦して欲しい。どんどん現場に出て多角的な報道をして欲しい。定番ニュースの処理は難しく、新しい切り口が必要で工夫が問われる。新年度スタートの新社会人へのインタビューは、銀行統合・働き方改革・農業問題と安定感のあるテーマを選択し、それぞれの発言を上手く吟味して使っていた。企画の「チョイス」は、生放送ならではの取り組み。テーマの選択が今後難しくなるかもしれない。リゾート列車も良かったが、夕方の時間帯を考えると他のテーマでもよかったかも知れない。例えば、話題のニュースを取りあげて視聴者アンケートをとる形をとっても良いと感じた。過去のニュースアーカイブ映像を紹介する「にいがたプレイバック」は、過去映像だけでなく登場した人物やその時代を知っている人の話も盛り込めれば膨らむと感じた。ニュースに合わせた解説や深掘りする

コーナーがあると良くなると思う。

- この番組が目指すものが伝わらなかった。情報を出すだけでなく、考える時間が欲しかった。企画の「チョイス」は、重複するコメントと内容があって間延びしている感じがした。
- 地方局として地域に密着した番組を作っている。放送と通信の融合を狙って作っている。

～新潟放送 放送本部情報センター長 丹羽崇から～

- 貴重なご意見を頂き、ありがとうございます。ニュースを放送していると、外からの生の声を聞くことが少ないので勉強になりました。4月2日の放送はリニューアル初日で、植田キャスターのデビューを打ち上げ花火にならないように苦慮しました。企画の「チョイス」のテーマは、その時のタイムリーな話題や投票しやすい内容など視聴者を意識して選んでいます。結果の出し方につきましては、研究の余地があると感じました。植田は、記者キャスター・フィールドキャスターとして経験を積み重ねていきたいと思っています。「にいがたプレイバック」は去年10月にスタートしたコーナーで、今後も当時の映像が現在にどのように繋がっているかを意識して伝えていきたいと思っています。今後もテンポを意識して、頼りになるニュースを柔軟な姿勢で取り組んでいきたいと思っています。ご指摘を参考に、今後の番組作りに役立てていきたいと思っています。本日は、ありがとうございました。

【文責・番組審議会事務局】
